

彦根歌謡祭

～湖国を謡う～

日時：2021年10月9日（第2土曜日）AM10時より

会場：ひこね市文化プラザ エコーホール



主催 /サウンドレイク

彦根歌謡祭実行委員会

ご挨拶

本日は、お忙しい中、又コロナ禍の大変な時にご参加いただきまして心より御礼申し上げます。

毎回、彦根歌謡祭を開催するに当たりまして皆様方のご協力の賜物と深く感謝いたします。

感染防止には万全の対策をしておりますので、これからも更に、唄の輪が広がりますことを願い、開催のご挨拶とさせていただきます。

NHK 専属バンド : 鈴木操とジャズキングスオーケストラ元所属

ピアノ・キーボーディスト 坂本純一

電話 0749-26-0070 (Fax) 携帯 080-1515-7759



NO.	氏名	曲名	歌手名	備考
1	磯谷欣児	浮世色恋沙汰	竹村こずえ	
2	畑重三	石楠花の雨	青山新	
3	山内末男	マイウェイ	布施明	
4	遠藤喜美雄	風物語	北山たけし	
5	國吉善之	望郷の道	和田青児	
6	中村正子	片恋しぐれ	瀬口侑希	
7	中村修	花の時・愛の時	前川清	

～ 湖国を謡う～

坂本純一楽曲（作詞・作曲・編曲・演奏・制作）

8	和気きよ美	釣り忍	
9	松本和子	奥琵琶西山三味線が哭く	
10	遠藤喜美雄	近江線	
11	向島節子	余呉の初雪	

昼食（50分）

NO.	氏名	曲名	歌手名	備考
12	磯谷欣児	みどりのケセラセラ	丘みどり	
13	小林正治	恋瀬川	こおり健太	
14	清水千恵子	儂な川	大月みやこ	
15	中川國枝	つづれ川	谷龍介	
16	児玉荒市	惚れたんだよ	北川裕二	
17	山脇園子	なさけ舟歌	岩本公水	
18	古澤勇治	対馬海峡	対馬一誠	
19	前田邦枝	花○あげる	松原のぶえ	
20	小嶋清	冬子のブルース	増位山大志郎	
21	大橋妙子	荒川峡から	永井みゆき	
22	森實登美雄	男酔い	吉幾三	
23	田中栄倭子	雨の越後路	永井みゆき	

NO.	氏名	曲名	歌手名	備考
24	脇耕三	別れの日に	すぎもとまさと	
25	園ミチル	人恋酒	美空ひばり	
26	田中清伯	津軽海峡鮪船	鏡五郎	

～湖国を謡う～ 新曲発表

坂本純一楽曲（作詞・作曲・編曲・演奏・制作）

27	向島節子	菅草橋	
28	遠藤喜美雄	奥琵琶菅浦 隠れ里	
29	松本和子	あいの土山宿	鈴鹿馬子唄より

30	松下幸子	白山雪舞い	丘みどり
31	雁瀬文勝	王将物語	渡辺要
32	野田花江	母ざんげ	米倉ますみ
33	中村正子	新舞踊 都流	
唄	遠藤喜美雄	鏡川	鏡五郎
34	向島節子	愛をありがとう	松原のぶえ
35	植田睦子	よされ三味線	小桜舞子
36	松本和子	紅のブルース	秋元順子
37	和気きよ美	関東春雨傘	美空ひばり
38	三宅千代子	Fsrawayこの空のどこかで	五十川ゆき
39	竹田光子	いちばん素敵な港町	秋元順子
40	寺田澄子	五里霧中	あらい玉英
41	木原正	魂（こころ）	北島三郎
42	高橋明子	夏つばき	島津亜矢

2022年度行事決定 彦根歌謡祭

日時：令和4年6月11日（土曜日）AM10時より

場所：ひこね市文化プラザエコーホール

本日は、諸般の厳しい状況の中、ご参加いただき心より感謝申し上げます。

道中、お気をつけてお帰りください。スタッフ一同。



坂本純一楽曲 作曲・編曲・演奏・制作 鈴鹿馬子唄より

あいの土山宿を唄う松本和子さん。

愛の土山宿

坂は照るてる

鈴鹿は曇る

あいの土山 雨がふる

お茶をもめもめ

揉まねばならぬ

もめば古茶も 粉茶となる

お茶を摘めつめ

しつかり摘みやれ

唄いすぎては 手がお留守



坂本純一楽曲 作詞・作曲・編曲・演奏・制作

奥琵琶 菅浦 隠れ宿を唄う遠藤喜美雄さん。

奥琵琶湖 菅浦 隠れ里

作詞 一力屋重兵衛

1 東京すてた女が一人
想い出連れて 汽車に乗る
小さな肩に ふる雨が
やがて冷たい 雪になる
バスを乗り継ぎ 落ち着く宿は
奥琵琶湖 菅浦 隠れ里

2 小さな部屋で 恋歌聞いて
流れる涙 酒杯揺らす
幸せ祈る あの人の
今も未練が 消えなくて
夢でいいから 私を抱いて
奥琵琶湖 菅浦 隠れ里

3 誰が弾くのか ギターの音が
琵琶湖に響いて 砂が鳴く
今頃誰と 暮らすのか
風の噂が 胸を刺す
宿命切ない 恋の細道
奥琵琶湖 菅浦 隠れ里



坂本純一楽曲 作詞・作曲・編曲・演奏・制作

菅草橋を唄う向島節子さん。

菅草橋

作詞 一力屋重兵衛

桜舞う朝 誰にも告げず 手荷物一つで旅に出た

私の心 知りもせず なんで私を捨てたのよ

菅草茂り 風にそよいで まるで私の心知るようで

菅草橋の たもとに立って あなたの面影を 探してるの

夕焼けの空 雁がとんでる どうか伝えてよこの思い

西野水道 暗いトンネル 冷たい風が吹き抜ける

光求めて 向こうに見える 琵琶湖を目指して歩いたね

あれから二年 季節は過ぎて 今年も余呉の川に蛍が舞う

夏が近づき 夕暮れ時に 下駄をならし 蛍追いかけたね

幼い日々の 思い出抱いて 菅草橋であなた待つの

あれから二年 季節は過ぎて 今年も余呉の川に蛍が舞う
夏が近づき 夕暮れ時に 下駄をならし 蛍追いかけたね

幼い日々の 思い出抱いて 菅草橋であなた待つの